

ポスター10

ポスター発表(研究)

在日中国人高校生の日本語感想文  
—トランス・ランゲージング・スペースでの支援活動実践—

権野 禎 (お茶の水女子大学大学院博士後期課程)

**研究目的・意義**：家庭で日本語を話さない在日外国人生徒にとって、日本の小説の読解は日本語の理解が難しい上に、文章の背景知識の理解(志村,2014)が求められ、感想文の作成は困難だと考えられる。言語教育においては、マルチリンガル(以下、ML)が言語資源を場面や状況に応じて使用するトランス・ランゲージング(以下、TL)という概念(Garcia,2008)がある。TL 指導法を取り入れ ML が方略的に学習活動を進められる「トランス・ランゲージング・スペース(以下、TLS)」(Li2011)では、ML の創造性(creativity)と批判性(criticality)を高める可能性をもつ。ピアレスポンス(以下、PR)は、学習者同士が書いたものを作文推敲のために読み手と書き手の立場を交代しながら検討する(池田・館岡,2007) 言語活動である。本研究は TLS での PR の有効性を検討し、ML の日本語作文指導に示唆を得ることを目的とする。

**研究方法**：発表者は地域の学習支援教室の関係者および研究対象者(と保護者)の承諾を得て、来日歴3年以内の在日中国人高校1年生5人に日本の短編小説の読解と感想文作成における支援を週1回1時間程度6回行なった。PR 前後で作文に現れた感情表現や描写の具体性、そして文章構造の変化について分析をした。

**結果と考察**：対象者は PR でコメントをするとき中国語を使っていた。PR を経て登場人物に批判的な考えを日本語で産出した。TLS での PR は感想文の展開に貢献したと考えられる。本研究は事例研究であり、知見は仮説的なものにとどまるが、TSL での PR は、批判的な読み、そして創造的な感想文作成に効果的な支援となる可能性があると考えられる。PR では中国語でもコメントの発信が難しい生徒がいた。このためピアの組み合わせを考慮し、コメントが困難な生徒には作文の読解やコメント産出の場面での足場かけが課題である。

【引用文献】

- 池田玲子・館岡洋子(2007)『ピア・ラーニング入門 創造的な学びのデザインのために』ひつじ書房
- 志村ゆかり (2014)「外国人生徒と日本人生徒の背景知識の違い：国語教科書の文章理解に関する背景知識を例に」一橋日本語教育研究.2,13-24.
- Garcia, O. (2009). *Bilingual Education in the 21st Century: A Global Perspective*. Wiley-Blackwell, Oxford.
- Li, W. (2011). Moment analyses and translanguaging space: Discursive construction of identities by multilingual Chinese youth in Britain. *Journal of Pragmatics*. 43(5). 1222-1235.